

「忘れられた大震災」と呼ばれた栄村の復興

～小さな集落である小滝区がなぜ上手くいったのか～

隈本邦彦ゼミナール

1531084 森田 絢子

2011年3月12日未明にM6.7の地震に襲われた長野県栄村では、東日本大震災の翌日であったためにその被害状況がまったく報道されず、全国からの支援や義援金は届かなかった。本論文では、そのことが復興の妨げになったかどうか検証した。

現地での調査の結果、報道されなかったことは特に復興の支障にはならず、むしろ自力で村を復興しようという励みにつながっていたことがわかった。復興を可能にした決め手は、300年前に一度なくなった村を村民の力だけで復活した経験だった。そして自力復興の途上にはメディアが役立つ場面もあったこともわかった。

○要旨

2011年3月12日に東日本大震災の遠方誘発地震として発生した長野県北部地震は、前日の東日本大震災の陰に隠れともすると忘れがちで、支援も届きにくかった。また、災害報道と復興の関係も、いままで十分には研究がなされているとは言えない。この卒業研究論文では、被災地の栄村を実地調査することで、報道も支援も少なかったにもかかわらず、なぜほぼ自力復興ができたのかをジャーナリズム的視点も加えて明らかにしている。

○評価ポイント

文献調査に加えて現地調査と当事者へのインタビューを重ねることで、復興の過程を歴史的な観点とジャーナリズム的視点から丁寧にとらえている。また、栄村の調査は3人の学生が協働で担当し、森田絢子さん以外にもそれぞれが論文にまとめていて、チームワークがそれぞれの論文のクオリティを高めている。

飯岡 美咲 「忘れられた栄村大震災」と復興の力～メディアが伝えない小滝集落の300年後～

岩崎 嵐司 忘れられた被災地栄村～小滝集落復興への歩み～